

(課程博士・様式7) (Doctoral degree with coursework, Form 7)

学位論文要旨

Summary of Doctoral Thesis

専攻： 共同教科開発学専攻 氏名： 森 慶恵

論文題目：健康情報の判断と選択に着目した健康情報リテラシー教育に関する研究

論文要旨：

本研究の目的は、情報化が進展する現代社会において、健康に関する情報を批判的に吟味、判断して、適切な情報を選択する健康情報リテラシー教育の方法を開発し、効果評価を行うことで、中学校における健康情報リテラシー教育を提案することである。

第1章では、健康情報リテラシーに関する先行研究から、ヘルスリテラシーをはじめとしたリテラシーとの関連、批判的思考、疑似科学信奉における認知バイアスとの関係を整理し、「健康情報リテラシー」を、「健康に関する情報を批判的に吟味して、科学的根拠をもとに信頼性を判断し、適切な情報を選択する能力」と定義した。そして、それらの分析から、2つの研究課題をあげた。研究課題1は、中学生の健康情報リテラシーに関する先行研究はほとんどみられないため、中学生の健康情報に対する態度や健康情報の批判的思考力の実態、ヘルスリテラシーとの関連、健康情報の判断に影響を及ぼしている要因など、健康情報リテラシーの実態を明らかにして、批判的思考と科学的根拠に基づく健康情報リテラシーの教育方法を開発、実践し、その効果と限界を明らかにすることである。そして、研究課題2は、明らかにした健康情報リテラシー育成における批判的思考欠如モデルの効果と限界をもとに、批判的思考と信念バイアスの回避と修正を考慮した健康情報リテラシー教育の方法を開発し、中学校で実践可能な教育方法と教材を提示することをあげた。

第2章では、第1章で挙げた研究課題1のうち、中学生の健康情報に対する態度や健康情報の批判的思考力の実態、ヘルスリテラシーとの関連、健康情報の判断に影響を及ぼしている要因など、中学生の健康情報リテラシーの実態を明らかにした。中学生対象の質問紙調査とその分析から、保健分野の批判的思考力は、年齢を経るにつれて自然に身に付くものではないこと、健康に対する態度や姿勢のうち、インターネットの活用力が批判的思考力に影響を及ぼしている可能性を明らかにした。そして、子どもたちに保健分野の批判的思考力を身に付けさせるためにはそのための教育の機会が必要であり、判断基準など批判的思考力を発揮させる方法やその教育内容を検討するとともに、批判的思考力を発揮させる方法や信念、情報処理の仕方を考慮した教育を検討する重要性を確認した。

第3章では、第1章で挙げた研究課題1について、批判的思考と科学的根拠に基づく健康情報リテ

ラシーの教育方法を開発、実践した。そして、健康情報リテラシー教育における、批判的思考欠如モデルの効果と適切な判断の阻害要因を明らかにし、中学生の健康情報の適切な判断に有効な教育方法を検討した。その結果、健康情報の信頼性を検討するための科学的根拠として「健康情報の見方」の活用した、健康情報の信頼性を批判的に吟味する学習活動を取り入れた保健授業を考案、実施して、健康情報判断力テストの得点が高めることができた。また、健康情報について疑問をもち、批判的に思考を働かせようとする始まりの行為を「健康情報についての質問を作ること」と考え、保健教育における批判的思考への質問生成の影響について検討し、質問の生成が批判的思考の促進につながる可能性を見出した。

第4章では、研究課題1で明らかにした健康情報リテラシー育成における批判的思考欠如モデルの効果と中学生の健康情報の適切な判断の阻害要因の分析をもとに、信念バイアスの回避と修正を考慮した改訂版健康情報リテラシー教育の方法を開発し、対照群を設けた実証研究を行った。その結果、健康情報リテラシー教育には健康情報の信頼性を吟味するための「批判的思考」が必要であるが、批判的思考欠如モデルには健康情報の判断には限界があること、健康情報の判断に影響を及ぼす信念バイアスの修正の条件を、健康情報リテラシー育成の保健教育モデルに取り入れることにより、信念バイアスの修正と健康情報の適切な判断に効果を与えることを明らかにした。

第5章では、本研究で得られた成果を整理して、本研究が目的とした「健康に関する情報を批判的に吟味、判断して、適切な情報を選択する健康情報リテラシー」の教育モデルを構造化して提案した。そして、今後の課題について、多様な健康情報に対応する健康情報リテラシー教育の検討と健康情報リテラシー教育を一般化するための教材の開発の必要性について論じた。